

第2回常総地方広域市町村圏事務組合消防力適正配置検討委員会

日時:平成30年10月15日(月曜日) 13時30分～15時50分

場所:常総地方広域市町村圏事務組合消防本部会議室

水海道消防署車庫

【出席者】

委員 : 糸井川委員長・鈴木委員・寺田委員・椎名委員・豊島委員・篠崎委員・
安藤委員・齊藤委員・武藤委員・佐藤委員・白鳥委員

(欠席者:中川委員)

事務局 : 岡田事務局長・大久保消防長・石塚消防次長・岡野総務課長・大塚総務課長補佐・
山田主査・森山主査

(一財)消防防災科学センター平野審議役・渡边上席主任研究員

第2回常総地方広域市町村圏事務組合消防力適正配置検討委員会次第

※ 委員会前に救急・消防隊員による連携活動デモンストレーション視察

1 開会

2 委員長挨拶

3 議事

(1) 第1回消防力適正配置検討委員会議事録について

(2) 消防力適正配置の検討について

- ① 消防庁舎の整備に係る基本要件
- ② 署所配置の要件
- ③ 災害危険性

平成27年9月関東・東北豪雨による消防本部対応状況

(3) 消防力適正配置等調査報告(第2回)

(4) その他

4 閉会

■配布資料

- ・資料1 第1回消防力適正配置検討委員会議事録
- ・資料2 消防庁舎の整備に係る基本要件
- ・資料3 署所配置の要件
- ・資料4 平成27年9月関東・東北豪雨による消防本部対応状況
- ・資料5 消防力適正配置等調査第2回報告資料
- ・参考資料 消防署所からの走行時間(現状署所)
3市のハザードマップ

救急・消防隊員による連携活動デモンストレーション視察(水海道消防署車庫)

(シナリオ)

65才男性、胸痛発症後意識消失。心肺停止の疑い。その他、詳細不明とした。

水海道救急隊、水海道タンク隊の現場到着から車内収容までのデモンストレーションを行う。

(委員) 傷病者を救急車に収容してから、どのくらいで病院出向しているのか。

(署員) 管内の統計にて時間をお伝えします。

(事務局) 現場到着から病院出向までの平均時間は16分41秒で、傷病者を車内収容してから、病院出向は同じく9分12秒です。

(委員) 病院の搬送先は、どのように決めているのか。

(署員) 傷病者の容態、症状、通院病院を基に手配しています。

(委員) 病院手配は、現場で行っているのか。

(署員) 救急隊3名での活動では、観察・処置があるため車内に収容した後に行っています。

支援隊が出場している場合は、現場で行うことも可能です。

(委員) 自動心肺蘇生器は、どれくらいの隊で使用しているのか。

(署員) 10月1日から、6隊の救急隊で運用しています。本年度中には、全8隊で運用となります。

※平成27年9月関東・東北豪雨による鬼怒川決壊時の敷地内浸水状況を説明する。

1 開会 岡野総務課長

2 委員長挨拶

糸井川委員長挨拶

議長:糸井川委員長

3 議事

(1) 第1回消防力適正配置検討委員会議事録について

(事務局) 第1回消防力適正配置検討委員会議事録の説明(資料1)

第1回消防力適正配置検討委員会議事録が承認される。

(2) 消防力適正配置の検討について

① 消防庁舎の整備に係る基本要件

(センター) 消防庁舎の整備に係る基本要件について説明(資料2)

消防庁舎整備の5つの基本方針説明。

② 署所配置の要件

(センター) 署所配置の要件について説明(資料3)

署所配置場所の4つの庁舎要件説明。

③ 災害危険性

平成27年9月関東・東北豪雨による消防本部対応状況

(事務局) 平成27年9月関東・東北豪雨による消防本部対応状況について説明(資料4)

鬼怒川決壊に伴い、消防本部の被害状況及び機能移転について説明。

(委員長) 消防本部移転は、どういう機能を守谷消防署に移転したのか。

(事務局)本部職員8割とともに、119番通報受信機能、緊急消防援助隊及び茨城県消防広域応援隊の指揮支援本部、メディア対応のため機能移転した。

(委員)変電設備及び自家発電設備が浸水し、被害にあったがそのままなのか。

(事務局)被害後、仮復旧をして使用している。来年度、更新予定である。

(3) 消防力適正配置等調査報告(第2回)

(センター)消防力適正配置等調査報告について説明(資料5)

消防署所(8署所、7署所、6署所)の適正配置を4.5分、7分、9.5分の到着率を最大化した場合及び消防署所適正配置の運用効果における科学的資料の説明。

(委員長)署所を削減するのは、職員の定数が決まっているので、救急隊員の専従化を図るため必要である。

(委員)救急隊員の専従化を図るために、現在の職員数を変えないで専従化を図るには、署所をいくつ減らせば可能になるのか。

(事務局)現在職員数255名で、現場職員は、205名であります。3署5出張所に職員を配置し、出張所は総数15名で勤務をしていますが、交替勤務ですので、7名で1隊運用の勤務をしています。3出張所に縮減することにより、5名程度の職員増で、専従化=2隊運用が可能になると考えます。

(委員長)適正配置を4.5分で考えると、人口が密集しているところに署所が配置される。9.5分で考えると圏域を超えてカバーするように配置するようになる。そのため、7分を基準として考えることが適当ではないだろうか。

(委員)7署所で示された資料では、6署所を移転しなければならないことから、予算の心配がある。また、事務局から説明のあった6署所では、現場到着までの遅延が起きるのではないか。

(事務局)8署所の内、4署所が20年以内に50年以上が経過し、建替え時期を迎えます。また、4署所は、30年以内に50年以上を迎えます。早急に行いたいのは、谷和原出張所と東部出張所の統合を10年以内に行わないと、みらい平地区の消防需要に耐えられないと考えます。また、谷和原出張所は、地盤沈下の問題もありますので移転をしたい。その他の署所は、更新時期が来た時点で、土地の確保が出来れば、適正配置周辺に移転を考える。すぐに、行うのではなく20年位で適正配置を行いたい。

(委員長)常総広域の適正配置を7分の到着率を基として考えてはどうだろうか。
承認される。

(委員長)署所の数については、次回以降検討する。

(4) その他

- (事務局)1. 次回開催は、11月12日月曜日、13時30分から消防本部会議室にて実施します。
2. 次回の検討委員会時に、資料保存ファイルをお配りします。

4 閉会

※ 訂正 第1回常総地方広域市町村圏事務組合消防力適正配置検討委員会の議事録内容
(誤) (一財)消防科学総合センター (正) (一財)消防防災科学センター
大変申し訳ありませんでした。